

「ビルメンITの裏側」

人手不足等の解決策としてDXやITが着目されています。本コラムではあえて「IT導入失敗の理由」を挙げる事で、皆様のIT利用の成功に貢献できればと考えております。

連載 ⑨

株式会社 安井ファシリティーズ

ビジネス創造部 部長 伊藤 士

情報処理技術者ITストラテジスト



ハイテクを使いこなす業界と

ハイテクに振り回される業界

昭和生まれ限定ネタの気がしますが「NASAの技術」と聞くとワクワクしますか？ 私は10年前まで自動車などの

製造業向けにNASAやMITのIT技術を民間登用するよいうなプロジェクトに参加して来ました。未成熟な最新シス

テムを海外エンジニアと相談しながら改良する日々。複雑な自動車部品を三次元空間で「繰り返し」の自動設計&自動破壊

試験」させながら設計したり、数千人の技術者が連携しながら1車種を設計するための、複雑なデータ管理システムの設計などに携わりました。

膨大な人や資金を投入し、それに見合った成果を求められる。技術者として

はワクワクする環境です。そんな最先端技術も時間とともに事例・ノウハウ・システムが成熟するとどの企業にも使い易い技術になります。すると…失敗する企業が急増しました。ノウハウもシステムも成熟したのに、なぜ

成功率だけが下がる!?

IT導入したが業務定着していない現場に数多く遭遇してきた経験から、建築業界(特に維持保全)向け情報管理改善サービス「パノラマmemo」の事業を立ち上げる。ビルメンテナンス業界からの相談は100件を超える。

成功率だけが下がる!?

一番目立った原因が「規模感の取り違い」でした。大量生産の場合、1製品を何万个も作るの、1製品の設計・製造に膨大な資金投入が出来ます。しかしお客様ごとの一品生産では、開発資金も制限されます。

医療に例えると1億人を救うための新薬開発する医師も、目の前の1人を救う医師も、スキルが同じでも人数・開発費・IT投資規模が違うのと同じです。

すよね!

す。

全ハイテクがそういう訳ではないものの、やはり量産と一品生産ではIT・設備・投資の仕方は全く違います。そして、その違いに気付かず失敗する企業も山ほど見ました。あの有名な大企業も…。

建築業界に転職してからは、現場ごとに仕様や文化が違うためか派手なITに触れる機会は減りましたが、逆に凄いい職人・達人に出会う機会が激増しました。量産ではない一品一様のサービスには、一人一人の柔軟性やマルチタスクが大切だと現場で実感できたのは貴重な経験です。

「柔軟な対応こそAI!」という声も耳にしますが、何が柔軟で何が柔軟でないのか?を理解していない状態なら、触れない方が良いでしょう。ハイテクに振り回されている場面をよく目にするので。